

都市近郊の歩く道「京都トレール」 の思考と設定方法

塚本珪一（大阪薫英女子短大）

歩く道、考え方、方法、ファミリー、マニュアル

1. はじめに

京都市観光局観光部振興課は1991年に、京都を一周する歩く道＝仮称「京都トレール」を提案し、京都府山岳連盟と作業を開始した。この構想は京都市長の提唱する「健康都市構想」にも関連する事業である。演者もこの計画に参画し、トレールの設定思考づくりとコース設定の具体的な作業にも参加した。

都市近郊の歩く道設定にはレクリエーションの価値を高めるための思考と設定方法について研究した。対象としてはファミリーのハイキング、観光客などの歩く道で、2-3種のトレールを考えた。特に最近の傾向として、ファミリーのハイキングが増加しているため、ファミリー行動のサポートとその安全をいかに考えるかをルート設定の基礎とした。

2. 研究方法

歩く道を考えるとき、歩く観光、ハイキング、軽登山の3レベルでとらえた。歩く観光は京都の特徴としての聖域を歩いてつなぐものであり、ハイキングは軽登山と明確には区別できないが、少なくとも地形図を読む意欲と技術がある場合は軽登山であると考え。

トレールの思考についての基本的討議は観光課と山岳連盟の委員によってなされた。基本的には上記3レベルのトレールを設定することになり、現地調査が始まった。

第一段階として、予測→実地調査→再検討→再調査→作図。第二段階として、バイパス、エスケープルートなどの決定、歴史、科学などの調査、資料収集、ガイド作成となる。

実地調査から再検討に至る作業の部分において上記3レベルの適応が決められていく。

今回は主として、東山ルート、北山ルート、西山ルートの内、ほぼ完成した東山ルートについて報告する。

3. 本論

(1) 京都トレールの基本的な考え方

京都市の観光局振興課の提案による企画であり、また、京都市長の「健康都市構想」もその骨子にあると考える。

京都府、京都市での歩く道の提案はこれまでに京都市文化観光局観光部の「京都散策ガイド・洛東編」、新しい歴史に向かって走ろう府民運動推進協議会の「京都府森林浴ガイド」、「歩民ガイドブック」、京都府医師会の「京都健康ウォーキングマップ」などに見られる。

これらはいずれも市中、郊外の部分的な歩くコースの提案であって、今回のように京都の周辺を接続するものではない。

この思考は兵庫県の六甲山での縦走コースを参考にしていることも事実であり、私たち

はそのコースの設定と全山縦走についての意見を聞き参考にした。

この六甲の思考とよく似たものとしては京都のネーチャラー・クラブの比叡山から愛宕山を結ぶほぼマラソンコースの42キロに近いルートの提案がある。

今回のルートの設定の考え方の基本はファミリーのレクリエーション、中高年者のウォーキング、観光客の歩く観光ルートなど対象はきわめて一般的である。

特に最近では京都でも都市近郊の里山の治安は良くなく、女性の一人歩きを警告しているところが多くなっている。そのような中で安全にファミリー、中高年の健康づくりと自然と親しめるルートの設定は必要である。

トレイルを設定する場合の考え方として、できるだけ昔から使ってきた道を選ぶ、自然保護の観点から人工的な改変はできるだけしない、自然豊かな道を選ぶなどを提示した。

(2) 京都一周トレイル設定基準

上記のように対象がかなり幅広いために1本のトレイルでは当然対応できないために次のような基本で設定した。

A-メイン・トレイル

平均的1日行程＝交通機関。主方向と逆方向を配慮して

B-サブ・トレイル：世代別、目的別＝観光、ハイキング、登山など

C-エスケープ・ルート

D-引き返し点

E-見学トレイル＝寄り道＝歴史、民俗、風景、三角点など

F-休憩所・トイレ：景色のよいところにベンチ

(3) トレイル設定後の問題

基本的な考え方のところで示したような条件を満足させるトレイルは安全ということを考えて必ずしも100%の数字は望めない。そのためガイド・ブックの刊行、配布、道標の設置、事故対策システムなどについて明確にしなければならない。

ガイド資料については自然、民俗、地理、歴史などを含めた地図を刊行する、ガイド・ブックは地図とトレイルの利用方法、歩き方などの基本と自然、民俗、地理、歴史などを解説したものを刊行する。

道標は現在の東海自然歩道で使用されているレベルで連続した番号のあるものを計画している。また、休日には現地での指導者による指導も必要であろう。

4. 結語

京都一周トレイルは健康都市構想と観光の新しい思考の可能性を求め、さらにファミリー活動の安全で健全な推進を目的にしている。

メイン・トレイルはもっとも一般的でファミリーのレクリエーション活動に適したもの、サブ・トレイルは世代別、目的別で観光、ハイキング、登山などそれぞれに対応したものを考えた。比較的良く保存されている京都市周辺の中での歩く道は今後さらに増加するファミリー活動の一つの行動の基本的なマニュアルを与えることにもなると考える。